

令和6年度 中野区立江古田小学校 学校経営計画 (報告書)

<p>学校教育目標</p>	<p>○かんがえる子ども 自分の考えをもち、粘り強く挑戦する子                  ○やさしい子ども 人を思いやり、豊かなコミュニケーションにより、仲良く活動する子                  ○たくましい子ども 命を大切にし、健康な心と体をつくる子</p>		
<p>目指す子ども (幼児・児童・生徒)像</p>	<p>①「探究欲」のある子(対事)→<b>自分なりの答えを追い求める子</b>                  ②「向上心」のある子(対自)→<b>もっとできるようになりたいと願う子</b>                  ③「表現力」のある子(対他)→<b>すすんで伝え合おうとする子</b></p>	<p>目指す学校 (教師像を含む)</p>	<p>「とにかく明るく元気な学校」「一人ひとりが大切にされ、どの子どもも活躍できる学校」                  ①「伝統ある学校」としてのプライドをもった教師                  ②「顧客(保護者)満足度No.1の学校」をめざす教師                  ③「学校の強み」を自覚した教師                  ④「時代が求める指導」ができる教師                  ⑤「良い職場づくり」のために実践する教師                  ⑥「教育者としての高い規範意識」のある教師</p>
<p>教育目標を達成するための基本方針</p>	<p>「とにかく明るく元気な学校」「一人ひとりが大切にされ、どの子どもも活躍できる学校」をめざす。                  ア 一人ひとりの能力・個性の伸長や学力の向上を目指し、生涯にわたり学び続ける態度を養う。                  イ 年間をとおして系統性を重視した学習活動を計画し、学力の定着と向上を図る。                  ウ 保護者・地域住民の理解と協力を得ながら、地域に開かれた学校づくりを進める。                  エ 保幼小中連携園・連携学校と関係諸機関と連携を図りながら、指導の充実に努める。                  オ 教育活動の質が向上するようにカリキュラム・マネジメントに努める。                  カ 保護者と連携して家庭学習を充実させ、児童が主体的に学び続けるために必要な基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る。                  キ 個別最適な学びのためにICT機器を活用する。また、国語科の研究をとおして協働的な学びを実現する。                  ク 児童が自他の生命と人権を尊重し、差別や偏見にとらわれず多様性を認め、共に生きて行こうとする豊かな心の教育に努める。                  ケ 「中野区子どもの権利に関する条例」を踏まえ、児童が意見や考えを表明することができる取組を推進する。                  コ 特別な支援を必要とする児童に対して組織的に対応する。                  サ 個別の取組目標を作らせ、体力向上及び望ましい生活習慣定着への推進を図る。</p>		

今年度の重点

A 重点目標	B 中期経営目標 (数年間でどのような状態にするか)	C 短期経営目標 (今年度末までにどのような状態にする)
<p>1 【知(確かな学力)】                      ①基礎・基本を身に付けた児童                      ②表現力が身に付いている児童                      ③探求的学習ができる児童                      ④児童の主体性を育てる学校</p>	<p>①標準学力調査「国語・算数」平均正答率全国平均<b>5ポイント以上</b>                      ②発表・表現が好きな児童<b>95%以上</b>                      ③<b>楽しんで探究学習を行う児童90%以上</b>                      ④<b>興味・意欲を引き出す授業を評価する保護者90%以上</b></p>	<p>①標準学力調査「国語・算数」平均正答率全国平均<b>以上</b>                      ②発表・表現が好きな児童<b>85%以上</b>                      ③<b>楽しんで探究学習を行う児童80%以上</b>                      ④<b>興味・意欲を引き出す授業を評価する保護者80%以上</b></p>
<p>2 【徳(豊かな人間性)】                      ①意見表明できる児童                      ②自己肯定感の高い児童                      ③目標をもって取り組める児童                      ④児童の可能性を引き出す学校</p>	<p>①<b>自分の意見が表明できる児童90%以上</b>                      ②自分によいところがある児童<b>90%以上</b>                      ③目標をもって取り組む児童<b>95%以上</b>                      ④<b>よさや可能性を伸ばす取組を評価する保護者80%以上</b></p>	<p>①<b>自分の意見が表明できる児童80%以上</b>                      ②自分によいところがある児童<b>80%以上</b>                      ③目標をもって取り組む児童<b>90%以上</b>                      ④<b>よさや可能性を伸ばす取組を評価する保護者70%以上</b></p>
<p>3 【体(健康・体力)】                      ①運動習慣を身に付けた児童                      ②体力を身に付けた児童                      ③思いやりを大切にできる児童                      ④児童の体力を高める学校</p>	<p>①<b>だいたい毎日運動する児童90%以上</b>                      ②体力テスト「投力」「持久力」「俊敏性」<b>全国平均以上</b>                      ③<b>思いやり育成の取組を評価する保護者80%以上</b>                      ④<b>体力向上の取組を評価する保護者95%以上を3年間維持</b></p>	<p>①<b>だいたい毎日運動する児童80%以上</b>                      ②体力テスト「投力」「持久力」「俊敏性」<b>都平均以上</b>                      ③<b>思いやり育成の取組を評価する保護者70%以上</b>                      ④<b>体力向上の取組を評価する保護者95%以上</b></p>
<p>4 【学校における働き方改革】                      ①超過勤務時間月45時間以内                      ②超過勤務年360時間以内</p>	<p>①超勤月45時間以下の割合<b>100%以上</b>                      ②超勤年360時間以下の割合<b>100%以上</b></p>	<p>①超勤月45時間以下の割合<b>90%以上</b>                      ②超勤年360時間以下の割合<b>90%以上</b></p>
<p>5 【保幼小中連携】                      「主体的に学ぶ姿7か条」を身に付けた                      幼児・児童・生徒の育成</p>	<p>①<b>連携の取組を評価する保護者70%以上</b>                      ②<b>取組啓発を評価する保護者80%以上</b>                      ③<b>授業改善を評価する保護者70%以上</b></p>	<p>①<b>連携の取組を評価する保護者60%以上</b>                      ②<b>取組啓発を評価する保護者70%以上</b>                      ③<b>授業改善を評価する保護者60%以上</b></p>
<p>7</p>		

重点目標を達成するための今年度の取組と評価基準・評価結果

A 重点	C短期経営目標(年度末までにどのような状態にするか)	具体的な方策	具体的な取組		成果		自己評価				学校関係者による評価				
			評語	取組に関する指標(可能な限り数値で)	評語	成果指標(可能な限り数値で)	取組指標		成果指標		考察(コメント)	改善策	評語	主な意見	
							中間	年間	中間	年間					
1知(確かな学力)	①標準学力調査「国語・算数」平均正答率全国平均以上 ②発表・表現が好きな児童85%以上	①二極化対応授業 ②電子黒板活用授業 ③発表力・表現力を育成する授業 ④AI学習ドリル実施	A	4項目すべて十分に実施	A	2項目ともに指標達成	B	B	C	C	音楽会や意見発表会など表現力育成行事が発表を好む児童の増加に奏功。AIドリルの活用が課題。	①AIドリル取組状況の見える化②デジタル書籍の活用加速化③日常的発表機会の創出④上位層の脱足踏み。	A	AIドリルの取組状況と学力調査の結果に乖離がある。ドリルに取り組んでいないもの間違いを放置したりゲーム感覚で取り組んでいたりして身になっていないのではないか。学校全体としてAIドリルの取り組ませ方に工夫すべきである。探究については主体性に結び付く取組なので放課後子ども活動を参考にして積極的に取り組んでほしい。	
			B	3項目を十分に実施	B	1項目達成・1項目指標以下									
			C	2項目を十分に実施	C	2項目ともに指標以下									
			D	1項目を十分に実施	D	2項目ともに大幅に指標以下									
	③楽しく探究学習を行う児童80%以上 ④興味・意欲を引き出す授業を評価する保護者80%以上	①探究の時間の充実 ②探究課題の工夫 ③自主学習の充実 ④学習問題の工夫	A	4項目すべて十分に実施	A	2項目ともに指標達成	C	C	C	B	総合学習を探究的な学習へのソフトチェンジする取組が奏功。各教科指導の学習課題改善が今後の課題。	①探究体育の校内研究成果を各教科へ拡散②「探究コンテスト」などのモデル的取組を積極的に顕彰。	A		
			B	3項目を十分に実施	B	1項目達成・1項目指標以下									
			C	2項目を十分に実施	C	2項目ともに指標以下									
			D	1項目を十分に実施	D	2項目ともに大幅に指標以下									
2徳(豊かな人間性)	①意見が表明できる児童80%以上 ②自己肯定感の高い児童80%以上	①学級会の充実 ②意見発表会 ③ほめる指導徹底 ④活躍場面の創出	A	4項目すべて十分に実施	A	2項目ともに指標達成	B	A	B	B	自己肯定は88%で活躍場面の創出が奏功。意見表明は67%で教科指導での指導の充実が今後の課題。	①日常的な意見発表学習の定着化。②学級会による意見発表力の育成。③活躍場面のさらなる創出。	A	学校がイベントを工夫して活躍場面を創出していることが自己肯定感や意見発表の自信(特に高学年)などにつながっている。個性伸長の取組を工夫して一層「自分のよさ」「自分らしさ」の自覚につなげる取組にしていきたい。児童各自が行事にどのように向き合うか、目標の持たせ方を含めて、行事に主体的に取り組ませる工夫をお願いしたい。	
			B	3項目を十分に実施	B	1項目達成・1項目指標以下									
			C	2項目を十分に実施	C	2項目ともに指標以下									
			D	1項目を十分に実施	D	2項目ともに大幅に指標以下									
	③目標をもって取り組む児童90%以上 ④よさや可能性を伸ばす取組を評価する保護者70%以上	①自己ベストチャレンジの取組充実 ②キャリア・パスポートの充実 ③学級活動の充実 ④授業公開の工夫	A	4項目すべて十分に実施	A	2項目ともに指標達成	C	B	C	C	諸行事に目標をもって取り組む児童は定着。個性伸長の取組を工夫改善する必要がある。	①生成AIやドローンなどの次世代教材の活用②ウェルビーイング教育による目標設定力の向上。	A		
			B	3項目を十分に実施	B	1項目達成・1項目指標以下									
			C	2項目を十分に実施	C	2項目ともに指標以下									
			D	1項目を十分に実施	D	2項目ともに大幅に指標以下									
3体(健康・体力)	①だいたい毎日運動する児童80%以上 ②体力テスト「投力」「持久力」「俊敏性」都平均以上	①外遊び・クラス遊び ②強化週間の充実 ③体育科の授業改善 ④体育的行事の改善	A	4項目すべて十分に実施	A	2項目ともに指標達成	B	B	C	B	運動イベントで3項目上昇傾向。伴って運動習慣も84%で習慣化を達成。投げる力の育成が課題。	①マラソン大会・縄跳び発表会の伝統化。②3項目の日常的運動メソッドの開発。③行事の改善。	A	思いやりや生命尊重などを育む取組については、本来家庭で行うべきである。学校だけでなく家庭でも実践してもらうなど、保護者も巻き込んだ取組を行ってほしい。目先の結果に一喜一憂せず、長いスパンで継続的に取り組んで成果を求めていくスタンスでよいのではないかと。そのためにも一過性の取り組みではなく伝統化していくことも必要。	
			B	3項目を十分に実施	B	1項目達成・1項目指標以下									
			C	2項目を十分に実施	C	2項目ともに指標以下									
			D	1項目を十分に実施	D	2項目ともに大幅に指標以下									
	③思いやりの取組を評価する保護者70%以上 ④体力向上の取組を評価する保護者95%以上	①思いやりウィーク ②道徳授業地区公開講座の充実 ③江古田レガシー ④取組の啓発活動	A	4項目すべて十分に実施	A	2項目ともに指標達成	B	A	B	B	思いやりを全校レベルで育成する意識は向上傾向にある。体力向上のイベントをさらに改善する必要がある。	①家庭を巻き込んだ道徳教育の充実②子どもの意見を取り入れた体力向上イベントの改善。	A		
			B	3項目を十分に実施	B	1項目達成・1項目指標以下									
			C	2項目を十分に実施	C	2項目ともに指標以下									
			D	1項目を十分に実施	D	2項目ともに大幅に指標以下									
4働き方	①超勤月45時間以下の割合90%以上 ②超勤年360時間以下の割合90%以上	①週1定時退勤日 ②退勤声かけ運動 ③勤務状況の管理 ④「立ち話ミーティング」	A	4項目すべて十分に実施	A	2項目ともに指標達成	C	B	C	B	超過勤務を削減させる意識は定着傾向にある。半面、休日出勤を削減させる取組が必要である。	①週番による退勤促進運動の実施②各自の定時退勤日の見える化③在宅勤務のやり方の改善。	A	在宅での仕事のしやすさや休みやすさなどの改善を図るための環境整備を進めていただきたい。教職員のメンタルについても支援を検討したい。	
			B	3項目を十分に実施	B	1項目達成・1項目80%以上									
			C	2項目を十分に実施	C	2項目とも80%以上は達成									
			D	1項目を十分に実施	D	2項目ともに80%以下									
5保幼小連携	①連携の取組を評価する保護者60%以上 ②取組啓発を評価する保護者70%以上 ③授業改善を評価する保護者60%以上	①7か条の周知 ②取組の啓発活動 ③公開授業の実施 ④年間講師による指導	A	4項目すべて十分に実施	A	3項目ともに指標達成	C	B	C	D	中学校区で目指す生徒像を共有して指導する体制は整った。日常の指導での一層の授業改善が必要である。	①取組の啓発活動の連携化②相互公開授業の活用と参観者のシステム化③校内還元OJTの工夫実施。	A	連携した取組を充実していく観点からもコミュニティスクールを活用して地域コーディネーターを核にして可能性を探ってほしい。異校種での交流は今後も積極的に行ってほしい。	
			B	3項目を十分に実施	B	2項目が指標達成									
			C	2項目を十分に実施	C	1項目が指標達成									
			D	1項目を十分に実施	D	指標を達成した項目なし									
6			A		A										
			B		B										
			C		C										
			D		D										
7			A		A										
			B		B										
			C		C										
			D		D										

\* 学校関係者による評価の評語は、自己評価結果について以下の観点で行う。

A 自己評価は適切である B 自己評価は概ね妥当であるが根拠資料が不足している C 自己評価と実態との差が大きい D 自己評価方法を見直す必要がある